

① 訃報 平成 27 年 3 月 25 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

特 別	夢童由里子	平成 27 年 3 月 21 日	名古屋市千種区 造形作家 恩師故野間光辰先生息女 待兼山「浪高生の像」作製者
14 理乙	仁村 泰治	平成 27 年 3 月 23 日	吹田市
19 文甲 2	滝島 保栄	平成 27 年 3 月 12 日	埼玉県新座市
19 文乙	渡辺十四生	平成 26 年 1 月	京都府乙訓郡大山崎町
21 理 1	立石 隆造	平成 27 年 4 月 16 日	八王子市
21 理 4	安達十希雄	平成 27 年 4 月 15 日	伊丹市

② 住居変更 連絡なし

③ 午餐会・懇話会

- \* 第 11 回浪高七日会 (通算第 521 回午餐会) 27 年 4 月 7 日 (火) 正午～13 時 15 分  
於 中央電気倶楽部 3 F 大食堂  
出席者 18 理乙橋田進・20 文乙池口金太郎・理 2 鶴岡誠・21 文甲 1 穎川勉二・真銅孝三  
21 文甲 2 露口佳彦・文乙村田正孝・理 2 武田晃世・前田泰敬・理 4 西村順三  
22 理 2 松浦實・三島佑一・理 3 井上達明・理 4 大路清嗣・事務局 阪田訓子 以上 15 名
- 次回は 5 月 7 日 (木) 開催。以降は 6 月 8 日 (月)・7 月 7 日 (火)。8 月は休会。  
9 月 7 日 (月)・10 月 7 日 (水)・11 月 9 日 (月)・12 月 7 日 (月) です。
- \* 文楽 4 月公演鑑賞会 27 年 4 月 13 日 (月) 於 国立文楽劇場  
第 1 部 開演 11 時 靉猿 吉田玉女改め二代目吉田玉男襲名披露口上  
一谷嫩軍記 卅三間堂棟由来  
出席者 17 理甲 2 山本昭夫・靖子・18 理甲 2 宇津敏勝・泰子・家那須知子  
18 理甲 3 遺浅井清子・20 理 2 鶴岡誠・千代子・21 文甲 1 遺小原美子  
21 文甲 1 圓井孝一・好子・家美貴子・友人・21 理 2 武田晃世・22 理 1 阿澄一寛・友人  
事務局 阪田訓子・田所智恵 以上 18 名  
21 文甲 1 穎川勉二・章子夫妻は 13 日所用のため 20 日 (月) に参加  
第 1 部 開演 11 時 絵本太功記 天網島時雨炬燵 伊達娘恋緋鹿子

④ 各地寮歌祭 報告なし

⑤ 支部だより

- \* 阪南支部二木会  
・第 368 回 27 年 4 月 9 日 (木) 13 時～14 時 10 分 於 堺東「咲蔵」  
出席者 6 文甲遺岩根正尚・18 理甲 4 高岸宗吾・20 文乙城野伊一郎・理 1 大塚穎三  
20 理 2 鶴岡誠・21 理 2 武田晃世 以上 6 名  
昼食後 (14 時 20 分～15 時 30 分) 堺市役所 21 階 展望喫茶「ミ・エール」で歓談

⑥ 同期同級交歓

- \* 15 回文乙同級会 27 年 3 月 28 日 (土) 11 時 30 分～13 時 30 分  
於 新阪急ホテル B 1 F 「モンスレー」  
出席者 黒田登喜彦・小島文三・西新勝憲・藤井甚十郎 以上 4 名
- \* 第 42 回「三寿会」(17 回同期会) 27 年 4 月 16 日 (木) 12 時～14 時  
於 大阪駅前第一ビル「神仙閣」  
出席者 理甲 1 川端義則・栗野正之・理甲 2 西岡邦夫・松山敏彦・山本昭夫 以上 5 名  
今回欠席の畑捨三君は稀にみる読書家で毎回彼が読んだ本に関し、批評と感想を 2～3 枚に纏め、披露してくれる。  
今回は「胡椒と人類の歴史」(マージョリー・シェファー著「胡椒 暴虐の歴史」より)  
次回は 27 年 6 月 19 日 (金) に開催を決定して散会する。

⑦ 運動部・同好会だより

- \* 第 61 回旧制浪高ゴルフ会最終会へのお誘い  
同窓の絆を紡ぎ且つ温めて来た色々な会も少なくなってきましたが、12 文甲故大曲先輩のご努力で春秋 2 回、30 年を越えて続いて来ました旧制浪高ゴルフ会も第 61 回の会合で幕を閉じることになりました。  
掉尾を飾る大会とすべく奮ってのご参加をお待ちしております。  
日時 27 年 5 月 28 日 (木) 9 時 50 分スタート  
場所 大宝塚ゴルフクラブ  
〒669-1241 宝塚市切畑字長尾山 19 Tel.0797-91-1361  
世話人 富田三郎 Tel. 0797-87-3838  
小谷剛造 Tel. 072-854-7813  
詳細は世話人までお問い合わせ下さい。

## 追慕

### 夢童由里子さんを偲ぶ（平成27年3月21日逝去）

20理2 鶴岡 誠

彼岸過ぎからフェイスブックに気になるブログが載り始めた。「姫が逝った」そんな馬鹿なと思いがながらも「3月21日午前3時に心不全で急逝」という新聞の訃報記事を目にしたときのショックは大きかった。

「姫」とは旧制浪高創立85年祭に際し、待兼山庭園に我々の青春の像を建てて頂いた夢童由里子さんのことである。フェイスブックでは「姫」と呼びかけていた。夢童さんとは8年前の夏の東海学生会寮歌祭で故浅井健さん（21理1 元名古屋市東山動物園長）にご紹介頂いたのが出会だった。その時、他の旧制高校に在って浪高に無い、青春の象徴、モニュメントを建てたいという個人的な夢をぼつりと呟いたのを耳にとめて、ご父君の故野間光辰先生の供養にもなるからとご協力頂けることになり、創立85年祭記念事業の一つとして提案させて貰った。

少ない予算や反対意見などのハードルにぶつかり、一時は断念しようかと弱気になったとき、「夢は実現するためにあるのよ」という「姫」の一言に勇気づけられたことを昨日のように思い出す。夢が実現できたのはひとえに「姫」の励ましと、採算を度外視してのご支援の賜物である。

以降、大阪大学の担当部署だった施設部の先生方にもご協力をお願いし、大阪大学同窓会連合会長の熊谷信昭先生ほか同窓会の諸兄のご支援を得てプロジェクトを進め、平成22年5月27日に除幕式を挙行することができた。夢童さんには除幕式に先立ち、平成22年4月14日の旧制浪高創立85年祭式典にもご出席戴いた。

夢童さんの代表的な作品の一つ、平成18年、日本国際博覧会（愛・地球博）に制作されたからくりモニュメント「日本の塔・月」は恒久保存され、今でも愛・地球博記念公園で見ることが出来る。東京銀座をはじめ、国内各地はおろか海外にまで、種々のからくりモニュメントを建立し、名古屋城本丸御殿復元にも献身的に努められ、その推進のための春姫道中を企画演出されるなど、その功績は大きく、文化功労者は勿論、文化勲章を受章されて、我々のモニュメントが阪大の宝物となる日が近いことを夢見ていたので、道半ばで急逝にショックを隠せない。

待兼山俳句会では今、合同句集「待兼山」第三集を編纂中であるが、その表紙に夢童さんの作品であり、待兼山俳句会のシンボルにしている「まちかね童子」を飾り、「姫」の供養にできればと願っている。今頃、由里子姫があのお世で浅井さんと楽しく語らっておられることを想像しながら、謹んでご冥福をお祈り申し上げる。

この花を見ずに逝かれし姫いづこ

言成

### 螺良英郎君（17文2）を偲ぶ

17理甲2 松山敏彦

螺良英郎（つぶらえいろう）君が平成27年3月14日に亡くなられた。螺良君とのお付き合いはそう昔からではなく、17回生で、文理科に関係なく、気のあった仲間の集まりである「三寿会」に25年4月に彼が入ってからだから約2年間の付き合いになる。というのは彼が北野中学から浪高の文2に入学したのは、戦争真っ只中の昭和18年であり、私は理甲であった。彼は水泳部、私は剣道部と異なり、更に続く勤労働員では、文科と理科は動員先が異なることが多く、螺良君と話を交わすどころか、顔を合わすこともなく卒業し、彼は医学部から医者になり、私は工学部から商社マンに全然異なる道を進み、再会したのは80半ばを過ぎて、浪高ゴルフ会（大宝塚ゴルフ場）であった。彼の人柄を聞いていたので、上記「三寿会」への入会を薦めた。この会は2ヶ月に一度集まり、一つのテーブルを囲んで、フリーに話し合うことにしていた。これが医者である螺良君にとって新鮮なものであったのか、よく出席しては、皆から病気の相談を始め、彼が研究していた癌、呼吸器病、感染症の解説、または最近の医療等の話をしてくれていた。

螺良君は趣味として絵を描いていたが、（社）大阪倶楽部の会員で油彩、水彩をこなし、私が倶楽部の絵画展を見に行った時、「絵画というものは画集や写真では、本当の良さは判らない、自身で美術館や展示会に足を運び、自分の目で直接絵を見ることが肝要である」と教えられ、以後、私にも比較的判りやすい「印象派」「新印象派」の絵を中心に足繁く美術館に出掛けられるようになった。

螺良君は文才にも長じ、平成21年発行の「つぶらのつぶやき（絵と文）」を贈られたが、今回今一度読み直してみても、ユーモアとウィットを随所に鏤められたなかなかの傑作で、彼の人柄が良く出ている。

平成27年1月に螺良君から肺癌で入院しているとの連絡を受け、同月16日に入院先の日生病院に見舞いに出掛けた。本人から「病状も小康を得ており、頑張ります」と意外に元気で、高齢者の癌は進行が遅いと信じていたので、こんなに早く訃報に接するとは想像もしていなかった。今一度見舞いに行かなければと思いながら果たせず、悔いが残るばかりである。（螺良君は結核予防会大阪病院で亡くなられました）

「出会い」と云う言葉があるが、80歳を過ぎての螺良君との出会いは、私にとって、付き合う期間が短かったが心を許せる盟友でもあった。その内私もお側に行きますからお待ち下さい。

合掌